

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	24-023	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The role of depression and use of alcohol and other drugs after partner suicide in the association between suicide bereavement and suicide: cohort study in the Danish population パートナーの自殺後のうつ病とアルコールおよびその他の薬物の使用が自殺による死別と自殺との関連において果たす役割：デンマーク人集団におけるコホート研究		
執筆者		
Pitman A, McDonald K, Logeswaran Y, Lewis G, Cerel J, Lewis G, Erlangsen A.		
掲載誌		
Psychol Med. 2024 Jul;54(9):2273-2282. doi: 10.1017/S0033291724000448.		
キーワード	PMID	
うつ病、媒介分析、分室関連障害、自殺、死別、自殺リスク	38465667	
要 旨		
背景： うつ病と薬物使用（アルコールや他の薬物）が、パートナーの自殺による死別と自殺との関連を説明するかどうかを調査した。		
方法： 1980年から2016年までのデンマークの全国縦断的データを用い、パートナーの自殺による死別に直面した22,668人と、他の原因によるパートナーの死によって死別した913,402人を比較した。因果媒介モデルを使用し、うつ病と薬物使用（別々に検討）が自殺による死別と自殺との関連を媒介する程度を推定した。		
結果： 自殺した遺族のパートナーは、他の遺族のパートナーと比較して、自殺およびうつ病のリスクが高いが、薬物使用のリスクは低かった。また、うつ病の診断が記録された遺族において、自殺リスクが高かった。媒介分析により、遺族の対照群を使用した場合、自殺した遺族とパートナーの自殺との関連性の2%がうつ病によって媒介されていた。		
結論： うつ病は、自殺による遺族と自殺との関連性の部分的な媒介因子であった。自殺による遺族のうつ病を予防し、治療を最適化することで、自殺リスクを減らす可能性がある。		